

平成21年度 事業報告

財団法人アクロス福岡は、国際・文化・情報の交流拠点であるアクロス福岡において、県民文化の向上と地域文化に寄与するために文化振興、情報提供、貸館の各事業を展開している。

指定管理期間（H18～H22）の4年目となる平成21年度は、消費の低迷や新型インフルエンザの発生など厳しい環境の中ではあったが、アクロス福岡が開館15周年を迎えたことから、さまざまな特別企画事業を盛り込み、これまで以上に、芸術文化に触れる機会の創出に全力で取り組むとともに、お客様の目線に立った一層のサービスの向上に努め、県民の期待に十分応えることができた。

財団の運営面においては、新たな課題である次期指定管理や公益法人制度改革等にも積極的に対応を進めた。

組織運営

開館15周年記念のさまざまな特別企画実施にあたり、お客様の高い満足度を目標に、定量的、定性的にバランスのとれた経営管理の強化を行った。

また、新5ヵ年計画の策定準備や、人事評価制度を試行的に導入したほか、公益法人制度改革における移行認定申請に向けて新会計基準導入準備等を進めた。

1 経営の合理化、効率化

15周年記念特別企画の実施にあたり、自主事業の収支管理の強化、また施設管理費の節減を徹底し、強固な財政基盤の維持に努めた。

2 人材育成の推進

人事評価制度を試行的に導入し、職員の帰属意識、士気を高める仕組みを整えた。また、指定管理者制度や公益法人制度改革に対する職員の理解をより深めるため研修を実施した。

3 ユニバーサルサービスの推進

シンフォニーホールでの財団主催公演を中心に、高齢者や障害をお持ちの方等により快適で安全に音楽を鑑賞していただけるよう、職員をホール内各所に配置し、案内・介助サービスの定着化、質の向上に努めた。

施設サービス事業

施設機能の特性を最大限活用し、お客様目線に立って一層のサービスの向上に努めた。

また、消防法の改正により各種届出を完了し、日常的な防災訓練の実施など防災管理体制の充実を図り、施設の計画的な維持・保全に努めた。

1 サービスの向上

お客様のニーズに対応するため映像器のデジタル化及び更新を行った。また前年度に運用開始した新予約システムによる利用手続きの簡素化やホームページでの情報提供が定着した。

2 営業力の強化

施設利用分析やアンケートの実施によりお客様のニーズを把握し、特に、景気に左右されない医学会等の早期獲得に向けて県、市町村や関係機関との連携をさらに強化し誘致に努めた。

3 防災管理体制の充実強化

アクロス福岡防火防災管理協議会と連携し、総合防災訓練への参加、財団独自の小グループによる防災訓練を定期的に開催した。また消防法の改正による各種届出を完了し、火災・地震以外の災害にも対応できるよう防災意識・防災体制の強化に向けた取り組みを行った。

4 施設の計画的な維持・保全

「安全の確保、トラブルの防止」を基本とした保守点検の順守、施設の計画的な施設維持・保全を行った。

平成21年度 主な施設の稼働率

施設名	区分	申込者数 (人)	利用日数 A(日)	開館日数		稼働率 A/B(%)	20年度 稼働率(%)
				B(日)			
福岡ソニーホール	音楽等	175	193	306	85.3	85.0	
	会議等	57	68				
	計	232	261				
イベントホール		178	248	312	79.5	86.1	
国際会議場		200	256	329	77.8	74.9	
大会議室		246	301	339	88.8	92.2	

(注)「開館日数」は休館日(年末年始)と施設の保守点検日を差し引いた日数

文化振興事業

「5つの理念」に基づいて、主催、共催又は協賛により80事業を実施した。

開館15周年を記念して「ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団」や「筑紫讃歌&筑後川」など4つの特別企画を実施した。

また、新たな取り組みとして「アフタヌーンコンサート」や「ちびっこコンサート」などを実施した。

さらに、気軽に音楽に接してもらおう事業「アクロス・クラシックふえすた」を2日間実施し、期間中の新たな参加型イベントの試みとして自由演奏会やバックステージツアーを行い、音楽初心者にも配慮したバランスのとれた事業展開を心がけた。

このほか、県内各地域・団体や九州類似ホールなどとの広域的な連携、幅広い世代への音楽文化の浸透、次世代を担う青少年の育成と多くの鑑賞機会の提供などを実現するためにさまざまな取り組みを進めた。

1 「5つの理念」に基づく計画的・効果的な事業展開

(1) 芸術性と楽しさのアクロス ... 36事業【ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団ほか】

- (2) 育てるアクロス ... 18 事業【一万人コンサート、ランチタイムコンサートほか】
- (3) 地域とともに歩むアクロス ... 19 事業【レインボーコンサート、フロアコンサートほか】
- (4) アジアのアクロス ... 3 事業【九響&アジアのオーケストラほか】
- (5) 創りだすアクロス ... 4 事業【アクロス・クラシックふえすた、円形工房ほか】

2 春の音楽祭開催

良質な室内楽公演を中心とした「福岡グランドクラシックス2009」を実施した。

3 「福岡・音楽の秋フェスティバル」開催

- (1) 世界的指揮者を起用した「ゲルギエフ音楽祭 in アクロス福岡」を実施した。
- (2) 気軽に足を運んでもらうための「アクロス・クラシックふえすた」を実施した。

4 アクロス福岡開館15周年記念特別企画開催

- (1) ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
- (2) バイエルン放送交響楽団
- (3) 内田光子ピアノリサイタル
- (4) 筑紫讃歌 & 筑後川

5 文化振興事業支援のための助成制度の運用

大学オーケストラを主な対象とした青少年音楽サポート事業や地元音楽団体等に対する助成を行った。

6 新たな取り組みの実施

- (1) 平日午後の新たなニーズを掘り起こすため「アフタヌーンコンサート」を実施した。
- (2) 未就学児も気軽に楽しめる親子で鑑賞できる事業として「アクロスちびっこコンサート」を実施した。
- (3) 他の音楽ホールとの連携を強化し「ダネル弦楽四重奏団」や「オーストリア・ハンガリー ハイドン・フィルハーモニー」を実施した。

7 チケット販売の拡充

- (1) 学生に生の演奏を聴く機会を多く提供するため、主催公演の当日券を半額で提供した。
- (2) アクロス福岡シンフォニーホール貸館利用者からの公演チケットの受託販売を実施し、お客様へのサービスの向上に努めた。
- (3) 友の会事業を拡充し、会員の増強を図った。
(新規事業として会員参加型事業「オペラを歌おう」を実施)
- (4) 友の会会員数：3,664名(3月末現在)

情報提供事業

お客様のニーズを踏まえた情報提供サービスの向上を目指し、インターネットを活用した文化検索システムの充実やアジアに向けた情報提供など情報の発信に努めた。

また、伝統文化、芸術文化の振興・普及、後継者の育成を図るため、各種文化講座や企画展を開催し、文化活動の場を支援提供した。さらにアクロス福岡開館15周年記念特別企画として、アジアの布の魅力を紹介する企画展など3企画を開催した。

1 情報の発信

(1) 文化観光情報ひろばにおける情報提供の拡充

「福岡おでかけナビ」のリニューアルをはかり、地図や施設情報、検索機能を追加するなどコンテンツのより一層の充実を図った。

市町村・文化施設等との連携による文化観光情報の拡充を行った。

文化、観光MAPシリーズ第4弾として「福岡の建物MAP」を市町村の協力により作成した。

伝統芸能シリーズDVD第3弾を制作し、大型画面にて放映を行った。

(2) アジアに向けた情報発信(英・中・韓)

ホームページにおいて外国人向けに多言語情報の提供を図った。

福岡地域の観光コースを風物詩等と織り交ぜて紹介した情報誌並びにイベント・祭りMAPを作成配布した。

国指定伝統工芸品の多言語版DVDを制作し、匠ギャラリーにおいて放映紹介を行った。

2 地域文化の振興

(1) 地域・伝統文化の紹介と活性化

匠ギャラリーにおける伝統工芸品展示及び企画展を開催した。

カルタ祭り展を開催し次世代へ伝統文化の継承を図った。

伝統芸能フェスティバルを開催した。

アクロス福岡が発行する文化誌をテーマに文化カレッジを実施した。

(2) 文化活動者に対する発表の場の提供

公募による文化交流展及び作品展示等の場を提供した。

文化活動者を講師に文化であい塾を開催した。

(3) 夏休み子ども向けの事業の実施

「世界天文年」にあわせ皆既日食や天文現象について親子参加型企画展を開催した。

(4) 15周年記念特別企画の開催

「見て、来て、触れる」アジアの布たち 魅力体感展を開催した。

若手女性工芸家を迎えて、第13回女性伝統工芸士展を開催した。

県内若手工芸家と連携し未来の匠たち展を開催した。

(5) 共催事業の開催

文楽の魅力をわかりやすく紹介する「文楽いろはレクチャー」やアジア文化を広く紹介する講演会等を共催した。

3 「アクロス福岡文化誌」の刊行

アクロス福岡文化誌編纂委員会によるシリーズ第4巻「福岡の祭り」を刊行した。

広報・広聴事業

財団全体の事業を効果的・効率的に広報・PRするために情報を一元的に集約・管理するとともにホームページや情報誌などを活用して広報・広聴機能の充実を図った。

1 戦略的広報の実施

年間計画を策定し、事業に応じた重点的な広報を展開した。平成21年度はアクロス福岡開館15周年目にあたり、広く福岡県内外に広報を図った。

また、情報誌「アクロス」や平成20年度にリニューアルを行ったホームページを活用し、広報媒体としての効果的な運用と情報提供に努めた。

2 マスコミへの情報提供

九州交響楽団との合同による定例記者発表を実施するとともに、効果的なプレスリリースの作成・配布を行い、広報媒体の活用を図った。

3 広聴機能の充実

財団アドバイザー会議など各種アドバイザー会議におけるさまざまな意見のほか、公演や講座ごとのアンケート、ホームページを通じて寄せられる意見や要望を参考に事業の改善に努めるなど広聴機能の充実に努めた。